

【第2次札幌新まちづくり計画 平成21年度進行管理評価結果】

『政策目標5 文化の薫る、都市の魅力が輝き、にぎわう街』

重点課題1 札幌の特色を活かした文化芸術の振興

< 施策の基本方針 >

豊かな自然、冷涼な気候、情報に鋭敏な感性、進取の気風からはぐまれる札幌の特色を活かして、多様な文化芸術を享受できるまちづくりを目指し、市民が街のいたるところでさまざまな文化芸術を楽しみながら実践し、表現・発信できる環境づくりを行います。また、市民や企業、NPOなどのさまざまな文化芸術活動や相互の交流を促進するとともに、札幌の文化芸術の魅力を国内外に積極的に発信していきます。さらに、地域の優れた自然、文化、史跡などの文化遺産の保存と活用を推進するとともに、先住民族文化への市民理解の促進を図ります。

事業費の進捗率

88.4% 算出式：(H19決算額 + H20決算見込額 + H21予算額) / (計画事業費) 1,754,160千円 / (計画事業費) 1,985,300千円

施策別の主な取組内容

19～20年度(実績)

【施策1】多様な文化芸術に親しみ、交流・発信する環境づくり
 ・サッポロ・シティ・ジャズ：アマチュアにも参加資格があるパークジャズライブのほか、国際交流事業やアート&ジャズなどに対して補助した。
 ・札幌市文化芸術振興条例に基づく基本計画策定：パブコメや庁内調整を経て、基本計画を策定し、公表した。
 ・厚生年金会館存続の検討：札幌市・北海道・札幌市の三者により存続検討会議を踏まえ、施設存続に向け、入札に参加し、落札した。
 ・芸術文化情報発信事業：観光文化情報ステーションをオープンし、ホームページの運用を開始した。
 【施策2】市民が自ら作り上げる文化活動の振興
 ・佐藤忠良関連施設整備：施設の新築工事を行い開設、子どもを対象としたワークショップ事業等を実施した。
 【施策3】文化遺産の保存・活用と伝統文化、先住民族文化の継承
 ・公文書館整備基本構想策定：有識者からなる公文書館基本構想検討委員会を設置し、公文書館の具体的な検討に着手した。
 ・文化財施設維持保存事業：豊平館の外壁塗装工事や、損壊した八窓庵の復旧工事を実施した。

21年度(予定)

【施策1】多様な文化芸術に親しみ、交流・発信する環境づくり
 ・サッポロ・シティ・ジャズ：パークジャズライブのほか、国際交流事業(カナダ遠征)やワークショップに対して補助を行う。
 ・(仮称)SAPPOROアート&コミュニティセンター整備事業：「旧曙小学校跡施設活用計画」に基づき、校舎の改修工事を行うほか、管理運営団体の選定・契約をし、施設開設を目指す。
 ・創成川アートワーク事業：アートワークの基本計画策定を行い、作品内容の概要を確定させる。
 【施策2】市民が自ら作り上げる文化活動の振興
 ・子どもの美術体験事業：市内小学5年生を芸術の森に招待したり小学校にアーティストを派遣し、共に作品制作を行う。
 ・子どもの映像制作体験事業：プロの指導のもと、映画制作などを子どもたちに体験させ、次代の文化振興の担い手を育成する。
 【施策3】文化遺産の保存・活用と伝統文化、先住民族文化の継承
 ・文化財施設維持保存事業：時計台のバリアフリー設備工事等を行うとともに、豊平館耐震診断等検討委員会を開催する。
 ・札幌市アイヌ施策推進計画策定：検討委員会設置、計画策定。

市民・企業等との協働の状況

市民との連携、市民参加
 ・札幌市文化芸術振興条例に基づく基本計画策定：基本計画検討委員会の委員9名中、3名を市民からの公募委員とするとともに、文化芸術活動に携わる方々(延べ42名)との懇話会を6回開催し、さらにパブリックコメントを実施した。
 企業等との連携、協働
 ・パンフィック・ミュージック・フェスティバル事業費補助：グランドパートナーをはじめとしたメセナ企業からの協賛金や寄附金などによりレベルの高い事業運営を維持している。
 市民・企業等が参加しやすい環境づくり
 ・サッポロ・シティ・ジャズ：専用ホームページのほか、芸術の森ホームページや民間のブログ等により情報の提供を行っている。
 ・芸術文化情報発信事業：文化芸術活動を中心とした事業主催者自らが情報を登録、広報している。

評価(成果)と課題

【施策1】多様な文化芸術に親しみ、交流・発信する環境づくり
 ・PMFやさっぽろアートステージ事業などの既存事業のみならず、サッポロ・シティ・ジャズなどの新たな事業を展開することにより、様々な文化活動に市民が親しめる環境づくりが進み、集客交流を促進する機会を創出することができた。
 人的・物的資源が限られている中で、各事業者がより効率的な事業運営や、事業自体の魅力アップ、効果的な情報発信を行うことにより、市民への定着と、集客交流につなげていく必要がある。
 【施策2】市民自ら作り上げる文化活動の振興
 ・既存施設を有効活用した学校開放事業などにより、市民の様々な文化活動を支援できた。また、既存事業であるKitaraファーストコンサートや、子ども達が気軽に彫刻などを体験できる佐藤忠良記念子どもアトリエのオープン、「おとどけアート」を始めとした子どもの美術体験事業や子どもの映像制作体験事業など、子ども達のための事業も充実させることができ、次代を担う子ども達の育成に大きく貢献した。
 青少年に対する事業については、興味や関心を高め、継続的に内容の充実を図る必要がある。また、発表の場などの提供については、利用者拡大のための広報活動や利用者の声を活かした制度構築が必要であり、さらに、事業を継続するために、市民自らが事業を支える仕組みの浸透と裾野拡大を図る必要がある。
 【施策3】文化遺産の保存・活用と伝統文化、先住民族文化の継承
 ・文化財施設維持保存事業を順次行うことができた。また、公文書館基本構想検討委員会を設置し、公文書館の具体的な検討に着手した。
 未着手となっている保全計画を早期に策定し、文化財施設の計画的な修繕を行うとともに、伝統文化の保存・伝承について、広く市民に周知を図り、その機運を一層高めていく必要がある。また公文書館については、構想策定後、具体的な整備手法等の検討を行う必要がある。

今後の重点取組

それぞれの事業の充実を図り、観光、経済の振興や集客交流にも寄与できる事業に成長させていくこととする。
 具体的には、事業の魅力アップを図ながら、効果的な情報発信を行うほか、行政・企業・市民がそれぞれの役割分担のもとに連携し、事業の効率的な運用を図る仕組みの構築をし、これを浸透させ、効果的に実施していくものである。

主な達成目標の状況

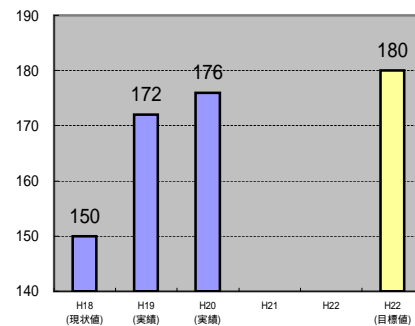
達成目標名	目標値(目標年度)	H18(現状)	H20(実績)
サッポロシティジャズ観客数	100,000人(H22)	4,000人	109,442人
PMFオーディション応募者数	1,468人(H22)	1,348人	1,272人
札幌交響楽団公演観客数	135,000人(H22)	131,464人	127,997人
さっぽろアートステージ鑑賞者数	360,000人(H22)	341,898人	352,376人
芸術の森週末施設利用率(野外ステージ)	60.0%(H22)	57.4%	55.6%
北海道厚生年金会館の存続	存続(H22)	-	存続
観光文化情報ステーション来場者数	100,000人(H22)	12,000人	55,438人
観光文化情報ステーションホームページアクセス数	200,000回(H22)	-	198,031回
札幌市文化芸術基本計画策定	策定(H20)	-	策定
舞台芸術創作活動支援事業補助金申請団体数	21団体(H22)	11団体	14団体
Kitaraファーストコンサート学校参加率	95.0%以上(H22)	94.2%	95.5%
都市景観重要建築物等の指定件数(累計)	30件(H22)	18件	28件
伝統文化保存伝承事業補助対象活動数	2件(H22)	2件	2件

主な施設・サービスの整備水準

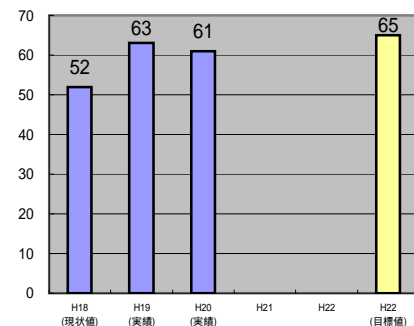
施設(サービス)名	整備水準	H18(現状)	H20(実績)
文化活動学校開放の開放教室数	24教室(H22)	21教室	22教室

成果指標等の動向

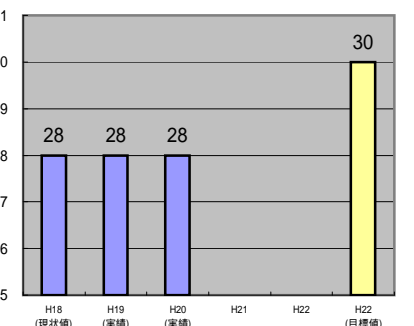
主要文化芸術施設の利用者数(単位:万人)



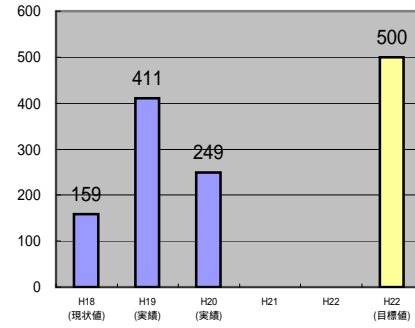
市内主要イベントの観客者数(単位:万人)



主要文化財施設の利用者数(単位:万人)



文化芸術に関するボランティア数(単位:人)



子ども関連事業参加者数(単位:人)

